

はにい

34人の対話

平成24年11月13日



6年生の算数。黒板の小さなマグネットは発言者の名前です。

発言者は全員に語りかけるように話す習慣ができています。クラスの仲間は体をそちらに向け、発言者の表情から伝わってくるものも受けとりながら聴く姿勢ができています。

さて、教師の立ち位置。藤森先生は全体が見える位置に立っています。教師は、一人ひとりがどう理解しどう感じているのかを受けとりながらファシリテートしていきます。

「途中までしか言えないんだけど」

「(何人か) いいよ。」

「〇〇さんの言った通り、Aの機械は一日に $1/15$ 舗装するじゃん。」

「(全員) うん。」

「で、Bの機械は $1/10$ だから、ここは通分して30を分母にして考えるといいかも。」

「あー。」「そっかあ。」「そういうことか。」「あ、だからさあ、合わせて $5/30$ で、 $1/6$ ってわけか。」

挙手もなし、先生の指名もなし。発言したい子はただ、すっと起立する。何人かが同時に起立した場合は譲り合って一人が語りだす。

仲間の反応も「いいよ」「うん」「あー」「そっかあ」

「だからさあ」と自然な対話です。

誰も起立できないときには、自然にグループでの対話が起こり、やがて誰かが「聞いて！」と立ち上がる。

「(全員) いいよ。」

「 $1/6$ で6日になるっていうのは、つまり・・・」



34人の対話。今日は中学校の教師たちも見に来ていました。

専用メールアドレス： inochi4027@pref.kanagawa.jp